

小牧南遺跡 第2次 (No, 6)

[小牧南遺跡位置情報](#) (クリックすると地図を表示します。)

○小牧南遺跡の出土遺物を紹介します。

小牧南遺跡では縄文土器や石器、また古墳時代の土師器など多くの遺物が出土していますが、その中から今回は縄文時代の石器を中心に紹介します。

○垂飾 (すいしょく) と埋設土器



写真1：小牧南遺跡出土の垂飾 (すいしょく)

左の写真は「垂飾」とよばれるもので、^{あな}孔にひもを通して首飾りなどの装身具として使用されていたと考えられます。

材質などについては現在調査を進めています。

この垂飾の注目点は縄文土器深鉢の「埋設土器」の中から見つかったことです (写真2)。

埋設土器とは縄文時代に竪穴住居の屋外に埋められた土器のことですが、深鉢型のものについては死産した乳幼児の遺体の埋葬に使われることもあったと考えられています。

このように埋設土器の中から垂飾が見つかったという例は全国的にも非常にめずらしいものです。

今後は深鉢の中の土 (埋土) をふるいにかけて骨や歯といった遺留物がないかを調べたり、さらに詳細な分析を行う予定です。

その中でリン脂質や脂肪酸といった成分を分析することで、この深鉢が棺として使われたもので、垂飾についても埋



写真2：垂飾が出土したときの様子

葬時の副葬品であるという可能性が出てきます。

また、この深鉢の形状の観察から、中の垂飾も含めて縄文時代中期後葉、約4500年前のものと考えられます。

○打製石斧と磨製石斧



写真3：打製石斧（左）と磨製石斧（右）

左は打製石斧（石を打ち割って製作されたもの）です。材質は緑色片岩ですが、三重県では伊勢志摩地方によく見られるものです。

また、右は磨製石斧です。材質はハイアロクラスタイトです。

ハイアロクラスタイトは鈴鹿山系の一部で産出されることが知られており、いなべ市（旧北勢町）の川向遺跡でも写真と同様の石器が出土しています。

○黒曜石



写真4：黒曜石片（石鏃の未製品や剥片か）

さらには黒曜石こくようせきを使った石器も出土しました。

黒曜石はガラス質の石材で、打ち欠くと鋭い刃物のようになることから、石鏃せきぞく（やじり）などにつかわれました。写真の黒曜石も石鏃を製作する際の剥片はくへんや未製品と考えられます。

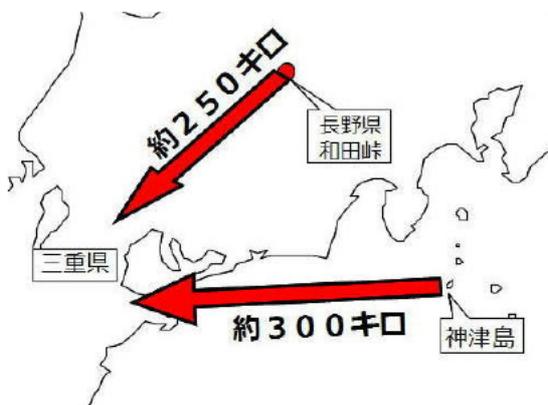
ただし、黒曜石は小牧南遺跡の周辺では産出しません。

ではどこで産出し、運ばれてきたのでしょうか？

三重県内の遺跡では長野県・和田峠や伊豆諸島・神津島産の黒曜石の出土例がこれまでに確認されています。ここで注目したいのは三重県からの距離です。三重県（北中部）から長野県和田峠まではおよそ250キロ、神津島までは海を隔てて300キロの距離があります。道路も自動車もない時代に人々はこの距離をこえて交流していたと考えられます。



黒曜石のかわりにこの地方からはなにが運ばれたのかということも気になるところじゃのう。



黒曜石の産地と三重

【問い合わせ先】

三重県埋蔵文化財センター 調査研究3課 四日市整理所

〒512-8064 三重県四日市市伊坂町126-1

電話番号：059-363-3195/ファックス：059-363-3196

E-mail：maibun@pref.mie.jp